

2021年8月25日

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記の検査項目を新たに受託開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

今後も弊社では皆様方のご要望にお応えできるよう、検査内容を充実させて参りますので、何卒お引き立ての程、宜しく願い申し上げます。

敬白

記

【新規受託項目】

検査項目名	レプチン/EIA
コード No.	(新システム) 13407 / (従来システム) 6085
検体量	血清 0.5mL
採取容器	B (汎用容器)
保存方法	冷蔵
検査方法	EIA
基準範囲	男性 : 0.6~8.9 ng/mL 女性 : 1.9~26.6
所要日数	3~9日
検査実施料/判断料	1000点 / 免疫学的検査 144点 脂肪萎縮、食欲亢進、インスリン抵抗性、糖尿病及び脂質異常症のいずれも有する患者に対して、全身性脂肪萎縮症の診断の補助を目的として測定した場合、患者1人につき1回に限り算定する。 本検査の実施に当たっては、関連学会が定める指針を遵守し、脂肪萎縮の発症時期及び全身性脂肪萎縮症を疑う医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

全身性脂肪萎縮症は、脂肪組織が摂取エネルギー量とは無関係に萎縮し、脂肪組織の減少・消失の進行とともに、重度のインスリン抵抗性、糖尿病、高中性脂肪血症、脂肪肝等、脂肪萎縮に起因する様々な代謝異常(症)を高率に合併する疾患です。これらの症状は、脂肪細胞から分泌されるホルモンであるレプチンの血中濃度の低下が要因であることが報告されています。

また血中レプチン濃度は、体脂肪率、体脂肪量と強い正相関を示すことから、脂肪萎縮を定量的に評価できるため、血中レプチン濃度測定は、MRI T1 強調画像検査と並び、全身性脂肪萎縮症の診断補助手段として有用な検査です。

《参考文献》 小川佳宏, 他: 医学と薬学 77(5), 767~774, 2020.

《参考 URL》 一般社団法人 日本内分泌学会「全身性脂肪萎縮症診断における血中レプチン検査の運用指針」

(http://www.j-endo.jp/modules/news/index.php?content_id=119)

【開始時期】 2021年9月1日(水) ご依頼分より

以上

尚、詳細につきましては、営業担当者またはインフォメーションまでお問い合わせ下さい。